



崎山 華英 議員

男女共同参画社会の実現に向けて

問 女性の働きをサポートする市内企業を増やすため、「くるみん認定」や「えるぼし認定」の取得支援を行ったり、認定事業者に対して入札加点を行うなどの独自の取り組みを行う考えは

答 認定の支援は労働局や商工会で受けられる。市は事業者が支援を受けられるよう情報提供を図っている。認定事業者への優遇措置は実施していないが、参考となる他市事例を調査研究する。



「くるみん認定」と「えるぼし認定」のマーク

問 男女共同参画を取り巻く社会情勢の変化に対応していくためにも、専門的に推進するデスクや室を設置することを検討す

答 現時点では市民生活課で所掌することが最適であると考えており、新たに専門デスクなどを設置する予定はない。今後の国・県の動向を注視しながら研究・検討していきたい。

子どもの意見表明権について

問 校則の見直しについて、校則が変わらない、子どもたちの意見が届いていないという声を聞くが、フィードバックがきちんと行われているのか見解を伺う。

答 生徒総会を例にすると、学校生活への意見や要望については、事前に生徒会本部と教職員が協議し、総会当日に担当職員が回答している。

問 今年度から子ども議会の実施を見合わせるとのことだが、子どもたちの意見を学校運営やまちづくりへ反映する機会を今後どのように確保していく考えか。

答 子どもたちの意見は、市政運営において重要なものである。現在は各課へのお問合せメールや市長への手紙を設けており、年齢を問わず利用できる。今後は、さらに多くの子どもたちが意見を表明しやすくなるよう既存制度の工夫などに取り組んでいく。

問 部活動の地域展開は地域にとっても大変な課題である。しっかりと地域に根づくまで長い目で見守ってもらいたいと考えているが、教育長の見解を伺う。

答 受入れ体制や活動環境が十分に整わない状況で見切り発車することなく、生徒の安全や活動の質を第一に考え、課題を確認しながら、着実に進めていくことが重要であると考えている。教育委員会としては、学校・家庭・地域が連携し、生徒たちにとってより充実した活動環境を整えることが可能となるよう、引き続き取り組んでいく。



宮澤 芳雄 議員

部活動地域移行について

問 部活動の地域移行について、部活動の地域展開は地域にとっても大変な課題である。しっかりと地域に根づくまで長い目で見守ってもらいたいと考えているが、教育長の見解を伺う。

答 受入れ体制や活動環境が十分に整わない状況で見切り発車することなく、生徒の安全や活動の質を第一に考え、課題を確認しながら、着実に進めていくことが重要であると考えている。教育委員会としては、学校・家庭・地域が連携し、生徒たちにとってより充実した活動環境を整えることが可能となるよう、引き続き取り組んでいく。

問 医療的ケア児への支援について、家族の負担軽減や保育の機会均等を図るため実施している、医療的ケアが必要な子どもへのサポート状況について伺う。

答 本市で医療的ケア児の受入れが可能な施設は、民間保育施設が2か所あり、うち1か所で受入れを実施している。

問 保育施設で受け入れる場合は、医療的ケアに関する技能や経験を有した看護師等を配置し、主治医などの指示の下、医療的ケアを行っている。

問 市内で、医療的ケア児を受け入れている保育施設はあるか。

答 本市で医療的ケア児の受入れが可能な施設は、民間保育施設が2か所あり、うち1か所で受入れを実施している。

問 医療的ケア児をサポートする体制について伺う。

答 こども家庭課の母子保健班では、6名の保健師が市内全域を11の地区に分けて担当し、医療的ケアの必要な子どもとその家庭に対する支援を行っている。

問 具体的にどのようなサポートをしているのか。

答 保健師は個々の家庭に寄り添い、必要なサービスへとつなぐ重要な役割を担っており、妊娠期から出産・子育て期までの切れ目のない包括的な支援を行っている。また、保護者の希望に基づき、関係機関の窓口への同行や入所予定の保育所・療育施設との連絡調整、見学の同行なども行っている。